デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業　評価結果

事業名	「農のある生活」を契機とした地域経済活性化及び農業振興事業	事業開始	令和５年度	事業終了	令和７年度	直近の評価実施日	令和7年7月9日

事業概要

令和５年度
農業体験コンテンツの開発・キャンプスペースコンセプト調査

○ キャンプスペースの調査
○ 農業体験コンテンツの開発、実施
　花の寄せ植え、酒造り、生き物観察会、
　ジャムづくり等の体験講座
○ スマート農業研修会

→ **令和６年度　より滞在時間の長い農業体験コンテンツの開発**

○ 農業体験コンテンツの開発、実施
○ モニターツアー企画
○ 民間活力を活用した拠点施設運営の検討
○ スマート農業研修会

→ **令和７年度　キャンプスペースを活かした滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備**
副業・兼業での農のある生活の担い手を発掘、活用するモデルケースの構築

○ 滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備
○ 兼業副業による農のある生活の担い手発掘・活用モデル構築
○市民農園利用での移住者や副業等の実施者をモデルとした「農のある生活」のPR
○ 翌年に開業を控えたキャンプスペースPR

【令和６年度　事業の実績】

年度	位置づけ	実施内容	事業費	交付金実績額	重要業績評価指標（KPI） 指標	単位	目標値	実績値	達成状況	令和５年度実績	事業の自己評価（① 非常に有効であった ② 相当程度有効であった ③ 効果があった ④ 効果がなかった） 評価	コメント	外部有識者の評価（① 効果があると認められる ② 改善が必要である） 評価	コメント
令和６年度	川越の都市農業の魅力を発信し、その魅力に触れる人々を市内外に増やしていくとともに、グリーンツーリズム拠点の民間活力を活用した管理運営のあり方を検討する。 キャンプスペースの整備について、デジタル田園都市国家構想交付金・地方創生拠点整備タイプの活用の検討を開始する。	**○「農のある生活」を楽しむための農業体験コンテンツの開発、実施** ・体験講座講師費用(報償)90千円 (補助金)34千円 ・モニターツアー企画(補助金) 119千円 ・動画の制作(補助金) 187千円 **○民間活力を活用したグリーンツーリズム拠点施設運営の検討** ・民間活力活用調査費(委託料) 7,997千円 **○効率的な農業を実現するためのスマート農業研修会の開催** ・実施費用（委託料） 190千円	8,617,600	4,308,800	農産物直売所の年間販売額	億円	8.8	**8.7**	99%	7.8	③	増加しているグリーンツーリズム拠点施設の利用者の多くが伊佐沼農産物直売所にも立ち寄ること等により、市内農産物直売所の年間販売額にある程度効果があった。	①	・グリーンツーリズム関連施策が農産物直売所の集客や販売額増加に一定の貢献をしていると認められる。グリーンツーリズム拠点施設利用者が前年比＋27%増加に対し、年間販売額の増加が前年比＋9%であり、上振れする余地はあると思われる。さらなる販売向上のために他の直売所との差別化、拠点エリアの各施設と直売所との連携を図ることが考えられる。 ・年間販売額の目標には未達であったことから、グリーンツーリズム関連施策に加え、川越で観光客が立ち寄るような観光拠点との連携や川越産農産物の効果的な情報発信（公共施設、SNS等を活用）、地域特産品（川越イモ等）を満喫できる飲食ゾーンの整備、出荷者等と連携した売り場作りなども行うと、より集客増につながると考える。 ・販売額のKPIは利益を度外視すれば、目標達成しやすい指標であることから、営利目的の事業ではないが、何らかの利益目標を設定することも必要ではないか。
					グリーンツーリズム拠点施設における新たな支え手の人数	人	7	**6**	86%	4	③	農業、食の体験コンテンツについて「知的レクリエーション」をコンセプトとしたことで、女子栄養大学との連携が構築された。これをきっかけに、同大学の学生たちが拠点施設の支え手として体験に従事するなど、さらに連携を深めることができた。	①	・グリーンツーリズム拠点については、今後拡大していく可能性が高く、民間活力の活用は重要。近隣大学との連携が図れ、施設の支え手として学生の参加があった事は効果があると認められ、また継続性も伺える。市内に大学が４校あるため、観光学及び食品学を学ぶ学生など、他の大学にも広げられると良い。 ・学生への参加メリットをアピールすることで、支え手の増加につながるのではないか。 ・支え手の多様化のため、例えば、農業も調理もキャンプもコミュニケーションが必須となる点に着目し、Only Englishのプログラムを開発し、指導できるような人材も採用するなど、切り口を変えてみてはどうか。 ・メインコンテンツである「農」と「食」に川越の新たな魅力を掛け合わせるために、各観光関連団体や市内企業との連携などオール川越としての取り組みを広げることや、地域のシルバー人材との連携などを通じて、実効性、継続性を確保するともに、地域住民の主体性を引き出す工夫も必要と考える。
					グリーンツーリズム拠点施設利用者数	人	43,000	**53,166**	124%	41,945	②	「知的レクリエーション」をコンセプトとする農業や食の体験コンテンツを開発し、体験コンテンツ数を増加させた。（R５体験事業数86→R６体験事業数97）	①	・体験コンテンツは、参加者の記憶に残りやすく、点から面に広げやすい取組として意義があると評価する。 ・様々なコンテンツ実施は、話題性等の創出にも繋がり、効果があると認められる。 ・取組のさらなる進化に向けて、ターゲットの明確化を図りつつ、SNS、HP、コミュニティ誌などでの継続的な情報発信や都市部でのPR等、リピーター獲得や関係人口の拡大に向けた取組を強化すると良いと考える。 ・単純にコンテンツを増やすだけでなく、これまでに実施した事業の効果を検証することで、より磨きをかけて頂きたい。 ・キャンプ場が開設される令和８年度以降、拠点施設利用者数のKPIだけでなく、公的な投資がどの程度回収されたのか、キャンプ施設利用者からの利益目標等についても検討が必要だと考える。

【令和７年度・計画期間末の予定】

年度	位置づけ	実施内容	事業費	交付金実績予定額	重要業績評価指標（KPI） 指標	単位	目標値		外部有識者の意見等（令和６年度会議）	実施の方向性
令和７年度	9キャンプスペースを活かした滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備、発信を進めるとともに、副業・兼業での農のある生活の担い手を発掘、活用するモデルケースの構築を行う。	**○滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備** ・交通アクセス実証実験費用 1,443千円 **○「農のある生活」を楽しむための農業体験コンテンツの開発、実施** ・体験講座講師費用 60千円 **○兼業・副業による農のある生活の担い手発掘、活用モデル構築** ・農業体験 兼業・副業人材費用 178千円 ・体験農園圃場管理 副業・プロボノ人材費用 216千円 **○翌年に開業を控えたキャンプスペースPR** ・キャンプスペースを含めたグリーンツーリズム拠点施設PR費用 600千円 ・「農のある生活」のPR活動費用 1,400千円	3,897,000	1,948,500	農産物直売所の年間販売額	億円	9.2		【キャンプ場運営】山間部の本格的なキャンプよりは、キャンプビギナーやファミリーなどがロケーション的にはターゲットかと考えられる。形から入る方が多いことが予想されるため、キャンプ用品メーカーとのコラボなども検討してみてはいかがか。 【コンテンツ拡充】1回限りの体験の他、種まき、育成、収穫など自分で育てた作物物を自ら収穫・調理・食すなど、継続的に利用するプログラムがあると、川越に複数回滞在することになり、馴染みも深まる。利用者が滞在を通じて、市内を循環するよう相互に連携した仕掛けも試していただきたい。 【直売所のPR】農産物直売所の年間販売額、創意工夫でぜひ目標額を達成していただきたい。達成には、直売所の魅力発信が重要と考える。 【新たな支え手】働き方改革を推進し、より充実したワークライフバランスを実現するための事例としてほしい。 【運営手法】滞在型グリーンツーリズムは、伊佐沼近隣の資源を活用した事業プランである。事業規模もコンパクトにまとまっている。一過性の事業とするのではなく、持続性、安定性を重視した事業運営を心掛けてほしい。	川越市グリーンツーリズム拠点施設について、令和８年度以降、指定管理者による管理運営を想定していますが、市民を含め、都市住民に気軽にご利用いただけるようなキャンプスペース、農業体験等のコンテンツの拡充など、指定管理者の創意工夫による効果的な運営を進めます。 また、農産物直売所、庭先販売所等を含め本市の農産物の情報収集、発信について、継続して推進します。 兼業、副業など新たな支え手の確保など、今後の導入可能性に向け、令和７年度の取組結果を検証していきたいと考えます。
					グリーンツーリズム拠点施設における新たな支え手の人数	人	10			
					グリーンツーリズム拠点施設利用者数	人	43,800			